



ふくしまけん
富岡町
移住・定住
ガイド
Living in TOMIOKA Town.

移住に関する相談窓口

とみおかくらし情報館

運営：(一社)とみおかプラス

TEL：0240-23-6983

Mail：tomiokaplus@gmail.com



<https://tomioka-plus.or.jp/tomiokakurashi/>

富岡町の移住定住ポータルサイト



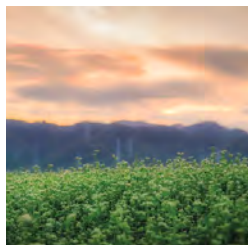
とみおかくらし

<https://www.tomiokakurashi.com>

福島県富岡町

一度きりの人生 心豊かに暮らしたいな
これから どこで なにをして暮らしていこうかな

あなたの中に芽生えた思いに 素直になったとき
大切にしたいものに気づく暮らしが あなたを待っています



福島県
富岡町

“大切にしたい”が
あふれる暮らしを富岡で

福島県富岡町。未曾有の災害に遭い、
まちとひととは大きな悲しみを経験しました。

その町でいま紡がれているのは、
自らの暮らしをかたちづくるものへの感謝にあふれ、
ありふれた日々にも、よこごび・楽しみを見出す暮らしです。

ひと、そして土地とのつながりの尊さを知ったから。
目の前の暮らしが、有り難いものと知ったから。

福島県浜通り地方の中央に位置し、太平洋と阿武隈山脈の間に広がる富岡町。
降雪は少なく四季を通じて暮らしやすい温暖な土地です。
JR常磐線、常磐自動車道が縦断し、東京や仙台へのアクセスも良好です。

住基人口 11,995人
町内居住人口 1,846人(2022年3月時点)
総面積 68.39km²

※2017年4月の避難指示一部解除により、現在は町面積の88%が居住可能となっています

“大切にしたい”に気づき、それに向き合うみんなの暮らしが折り重なる。この町で

大切にしたいひと 大切にしたい風景 大切にしたい時間に
気づく瞬間が あなたにも きっと訪れます。

“大切にしたい”があふれる日々は、あなたの人生に豊かな彩りを添えるでしょう。

わたしたち 富岡町が考える この町での暮らし

もともと富岡に暮らしていた人、移住してきた人、そして移住を考えている人。“暮らしと地域のあり方を見つめ直し、未来に歩みを進める”この町のこれからの、多様な背景をもつ人々が注目をしています。

富岡で新たな暮らしをはじめようと踏み出す移住者を、わたしたちはどう迎えることができるだろうか。これから、みんなでどのような暮らし・地域をつくっていくことができるだろうか。

今、この町で暮らす人たちと、未来について考えました。

原住民、新住民の区別は必要ない。「今、暮らしている」人達全員で楽しむ！

「移住者」という言葉に固執しない。住めば町民、新しい住人という視点で！

「特別」じゃなくていい。日常を一緒につくっていく。



富岡町民は全員移住を経験した。だからこそ、その土地で感じた、うれしかったこと、嫌だったことを活かしたまちづくりができる！

転勤・復興作業などで富岡に来ている人たちとの情報交換や共同作業の場をつくる。富岡にはそういう歴史があった。

大人だけでなく、子どもにも何が必要かを考える移住施策も必要。

皆さんの声から感じたことは、同じ町に暮らすもの同士、背景や立場の違いはむしろ強み・面白さにして、交わり合っていきたいという思い。そして、そのつながりが町の新たな日常を生み出していくだろう、という期待感でした。

とみおからし情報館では、移住相談のみならず、移住後も地域とつながる・交わるきっかけを提案していきます。

町に暮らす方々とともに、移住定住を促進するネットワークづくりやこれからのまちづくり等を考える座談会を2021年9月～12月にかけて4回開催しました。これらは「地元の人と移住者でどう地域をつくりたい?」という問いに対して座談会の中で共有された言葉の一部です。



地元のような愛着を感じる、人との近さが好き
つながりのある人がたくさんいるこの町で、暮らしたい

先輩移住者インタビュー

北海道
富岡町

中出彩香さん

年齢：20代
移住年：2021年

北海道出身の彩香さんが、富岡への移住を決めた経緯と想いを教えてください。

地元の大学で建築学を学んでいて、3年生の時に富岡のまちづくり会社「1社」とみおがプラスでインターシップをしたのが、町の初めての関わりです。インターンを終えた後にも町の人がイベントの度に案内をくれ、関わりを持ち続けてくれたのが移住を考える一番のきっかけになりました。この町に住みたいなというよりは「この町に住んだら知っている人がたくさんいるんだな」とって、頼れる人やつながりのある人がたくさんいる町で働きたいと思い、富岡での就職と移住を決めました。

実際に暮らしてみて、どういったところに町の魅力を感じていますか

会があります。そのたびに、「町をもっと良くしたい」と前向きな人が多いことに驚きます。自分の住んでいる町に関心がない人も少なくないと思うのですが、富岡では「町を良くしたい」と考える人が多くて、そこに魅力を感じています。

「富岡に暮らしていてよかったな」と思っただけでなく、お仕事を限らず、富岡に暮らす知り合いが気にかけてくれたり、声をかけてくださるのが嬉しい。移住してきた年の秋には、インターンをしていただいた会社の方が自宅で開催した芋煮会に誘っていただきました。それから、スーパーでもったり会って立ち話をしたりするのでも、日常生活の楽しみですよ。

都会的な地域ではなく田舎に生活しているからこそ、人との近さを感じるのが個人的には好きです。もともと都会で暮らしたことがないことも影響していると思いますが、地元のような愛着を感じています。

「富岡に暮らしていてよかったな」と思っただけでなく、お仕事を限らず、富岡に暮らす知り合いが気にかけてくれたり、声をかけてくださるのが嬉しい。移住してきた年の秋には、インターンをしていただいた会社の方が自宅で開催した芋煮会に誘っていただきました。それから、スーパーでもったり会って立ち話をしたりするのでも、日常生活の楽しみですよ。



なかで、彩香

Profile 中出彩香さん

北海道稚内市出身、室蘭工業大学で建築学を専攻。2019年夏に富岡町の企業でインターシップをしたことがきっかけで、富岡で暮らし働くことを希望。2021年に富岡町に移住。「(株)みたば」勤務。「とみおわインの葡萄畑からの景色が好きです」と教えてくれました。

富岡で見つけた、大切にしたいこと

人とのつながりを大切にしたいと思っています。町内を歩くと、いろんな場所で知っている人と会えて、あいさつあえる、そんな関係が持てることを大事にしたいです。



つながる、暮らす

豊かな暮らしを育む、新たなご近所付き合い

移住者が出身者と「つながる」インタビュー

町内の岩井戸地区に新たに暮らしと創作活動の拠点を構えた3人が、同地区に15代続く農家の渡辺さんご夫婦の家を訪ねました。とみおかくらしを始めるにあたり「地域の人とお話したい」と希望する3人を、ご夫婦はあたたかく迎え入れました。富岡の地で、出身も年代も超えてご近所さんとしての関係を紡ぎはじめた5人の様子を紹介します。

震災以前のまちの暮らし

達生 田舎はとも同じだと思っただけ、地域の住民は何をやるにせよ同体だったな。私らが子どもの頃は春の田植えや秋の稲刈りを「今日は○○さんとうらだ」といって、順番に回って終わったらみんなでご馳走食べてなあ。

青年になつてからは消防団も30年くらいあったかな。それから盆踊りもこの地区はおきてやっていたんだけど、参道上がついで道に提灯、灯つけてね。高いところだから見えるし、太鼓叩いても遠くまで聞こえる。子どもももういっばいだつたら賑やかだつたねえ。

でも、震災の頃にはほとんど兼業農家になった。昭和40年代から原発の建設が始まって、その関係に仕事を求めてね。

ヒロ子 若妻会や婦人会は震災の前までありましたよ。それから忍組合というのがあった。地域で葬儀をあげる仕組みがあつて、昔はお葬式を自宅をやっていたから。何年前だろう、20年くらい前まではやっていたかな？ 若い人は先輩たちから精進料理の作り方を教わったりね。

ヨネスク 私は東京出身だけど母の自家は地元にあってそこでも葬式となると近

所じゆが集まってくる。情操教育(?)のか子どもにこそ学ぶ機会があつた。今は儀式がなくなつていって残念ですね。

富岡町に惹かれた理由、まちへの思い

ヨネスク 僕と薫子さんは演劇をやっていて作品を作っています。震災を10代で経験して、東京にしながらも大きなショックを受けて、半年くらい鬱状態で学校に行くのも辛かった。その後美術大学に進学して作品をつくるとき、東日本大震災を扱おうと考えました。



渡辺達生さん、ヒロ子さんご夫婦

まつくつものを作るわけです。だからこそ、まつくつ場関係を作るかというのが大事なことで、できるだけその土地に入つて日常生活を体験しながら考えたり調べたりして作品を作りたいと思ました。

大学時代はまだ避難指示解除前で富岡に立ち入ることができなかったんですが、2年前に菜々美さんと知り合つて初めて富岡に来ました。

菜々美 私は中学1年生まで夜の森に住んでいました。震災後はじめて一時帰宅したのは高校1年生の時。パルクエの中の町が当時のまま残っているのを見て「自分の住んでいた町は完全に失われたわけではない、ここに帰って来ればあるんだな」と思い、帰つてこつと思いましたが、自分の家も学校も解体してしまつた今は、こつやつて町の人と知り合つて関わるのが「帰ってきたな」と思える時間です。

ヒロ子 小中高校生の時に震災を経験した人はとくに大変だったので。ある日突然知らないところへ避難するのになつてね……。

震災の後かかったと思つてかあんなくすれは星がまぶしく綺麗に見えた。工場や町の灯りが少なくなつて、子どもの頃に見た降るよな星が見えてくることができる。

ヨネスク 僕たちも富岡にいるときは毎日のおつに星を見ます。

薫子 それから、富岡に来たら必ず海にいきます。

防潮堤の工事などの変遷をずっと見ていて、街がへつられていく様子を定点観測しながら場所とのつながりを考えたりついています。

これから富岡で挑戦したいこと

薫子 今後町をリサーチして作品を作りたい。美は畑をやりたいと思っています。以前町内で畑作業の手伝いをした時、自分の知らない手つぎや、食とのつながりを感じることができ、暮らしや自然、町を知る手段が広がつたのを感じました。

達生 とうぞ、しじでモトトラクター持っていて、整地してやるよ。3人が住んでる家の畑は、前から私が整地してたんだよ。今は猪もくるよ、畑やるんだつたら、いつでも言へないけど。

3人 いいんですか？ 嬉しいーありがとうございますわー。

達生 みんなとお話しができてよかった。意見が新鮮で私も勉強になります。私は、帰還して地域が荒廃して人々を防止して

いきたいその二心で宮農再開に奔走したねえ。誰も経験したことがないことだし、3〜4年は手探り状態だった。でも、私は15代目だから簡単にはつづいていられない。その姿を祖先様にも見せたい。それが富岡の復興にも繋がっていく。

ヨネスク 僕たちも地域の人の話を聞くのをこれからも続けていきたい。それは、歴史的な脈、文化を織り込んで新しい町を作っていくことが大事だと思うから。富岡がどう変わっていくかこれからも見せていきたいです。



しじでも整地してやるよー 語る達生ごさん

Profile 秋元菜々美さん、小山薫子さん、キヨスヨネスクさん

富岡町夜の森出身の秋元さんと、東京出身の俳優・小山さん、俳優・演劇作家のキヨスヨネスクさんは、富岡町内で文化の交流拠点「POTALA-亜窟(あくつ)」と運営しています。3人で共同生活を送りながら(小山さん、キヨスさんは2拠点居住)、富岡町及び双葉郡のリサーチ・作品作りを行っています。2021年12月～2022年1月には、富岡町内をめぐる体験型ツアー演劇「うつほの鏡／漂流の景」を上演。

Profile 渡辺達生さん、ヒロ子さん

富岡町出身の達生さんと双葉町出身のヒロ子さんは現在、富岡町岩井戸地区で暮らしています。渡辺さんは富岡町に15代続く農家で、達生さんは家業を継いでいます。震災・原発事故で一度は避難しましたが、100年以上の歴史を重ねた木々に囲まれた愛着のある家や地域を守るため、2017年4月の避難指示解除に合わせて自宅に戻ってきました。

富岡で見つけた、大切にしたいこと

地震を含む災害や事故で失われていく何気ない暮らしや風景に向き合い、素直に受け止めること。そして暮らしや土地の文脈を清濁併せ呑んで遺すことを大切にしたい。(菜々美さん)

富岡町で暮らすなら、
知っておきたい!

富岡町の 支援制度



住む



子育て



働く

富岡町の移住相談窓口

「とみおか くらし情報館」



富岡町への移住を考え始めた「とみおかくらし情報館」にご相談ください。

移住相談担当スタッフが、役場・企業・人と連携して対応いたします。

とみおかでどのような暮らしをしていきたいか、暮らしのイメージを膨らませていきましょう。町のご案内、仕事・住まい探しなど、ご希望に合わせてとみおかくらしの第一歩を応援いたします。

富岡町移住相談窓口「とみおかくらし情報館」
住 所 福島県双葉郡富岡町大字小浜字中央338
(旧竹村写真館)

電話番号 0240-23-6983

営業時間 9:00～17:00 ※年末年始を除く



住む

定住化促進対策住宅助成金

町内に10年以上定住することを誓約する方の住宅取得又はリフォーム代の一部を助成します。

【対象経費】住宅取得又はリフォームに係る経費 ※土地購入費、工作物など対象外経費有り。【助成額】対象経費の15%又は300万円のいずれか低い額
(担当:都市整備課)

借上げ型町営住宅

町内への移住、定住を希望する方を対象に町営住宅を提供します。

【町営住宅概要】●平成11年度建築 ●総戸数:24戸
●家賃:45,000円(駐車場2台分含) ●所在:富岡町大字小浜字中央466-1 ●専有面積/間取り:65.31㎡/3DK
(担当:総務課)



働く

とみおか「新たな農業担い手」応援事業

町内で独立して営農をめざす方に、独立就農するまでの期間、一定の収入の補てんと家賃負担の支援をします。

【対象者】●町内で年間150日以上農業に従事する方
●満18歳から満65歳までの方

【支援内容】●最大2年間 ●収入補てん:10万円/月

●家賃補助:家賃実費額(上限7万円)/月

【交付条件】●町に住居登録 ●交付終了日以降5年間町内で営農 ●交付決定から2年以内に認定新規就農者の認定 ●町税未納なし (担当:産業振興課)

とみおか「農業研修」応援事業

町内の農業法人や認定農業者等から技術指導を受けながら農業を始めようとする方に、生活費と家賃負担を支援します。

【対象者】●町内で年間150日以上農業に従事する方
●満18歳から満65歳までの方

【支援内容】●最大2年間 ●生活費補助:6万円/月 ●家賃補助:家賃実費額(上限5万円)/月

【交付条件】●町に住居登録 ●交付終了日以降5年間町内で営農 ●交付決定から2年以内に認定新規就農者の認定 ●町税未納なし (担当:産業振興課)

がんばる農業支援事業

町内で農業を行う町民に、農業を行う上で必要な経費の一部を補助します。

【補助対象経費】●農作物の生産に必要な農業用機械の購入に要した経費 ●農作物の生産に必要な施設、設備の設置に要した経費

※リース資産又は農地保全管理のみを目的とするものは除く。【補助率】3/4(上限50万円) (担当:産業振興課)



子育て

児童出産記念手当

町内に1年以上住所を有している方の出産祝いに、出産記念手当を支給します。※出産時に1年を経過していない方は、1年経過した後に支給します。

●第1子及び第2子:1人につき5万円。

●第3子以降:1人につき20万円 (担当:福祉課)

子育て世帯奨励金

町内で子育てをする世帯の生活を支援する、奨励金を交付します。※3年以上居住することが条件となります。

●定住奨励金:1世帯あたり30万円 ●子育て奨励金:

中学3年生までに1人につき18万円/年(最長3年間)

(担当:福祉課)

乳幼児・子ども医療費助成事業

町内に住所を有する0歳から18歳までの医療費は無料です。

●所得制限なし ●保険医療費の自己負担金を助成

(担当:健康づくり課)

教育費の無償化

町立の小・中学校に通学する児童生徒の就学費は、町が負担します。【支援内容】●新入学用品(実費額)

●学用品(実費額) ●通学費(実費額) ※公共交通機関

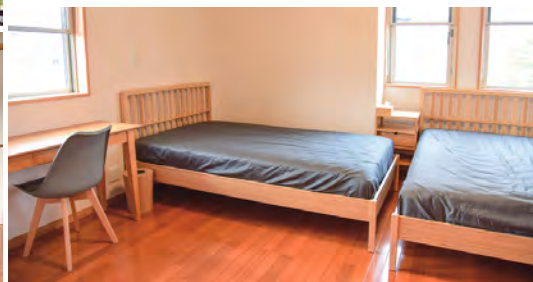
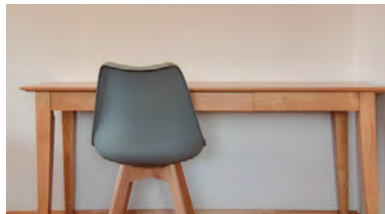
に限る ●校外活動費(実費額) ●修学旅行費(実費額

上限あり) ●給食費(実費額) ●被服費(実費額) 制服、

運動着、水着、上履き、通学カバン、サブバッグ ※小・中

各1着目に限る ●ランドセル(上限額30,000円)

【交付条件】●町に住居登録 (担当:教育総務課)



【とみおかくらしを
体験してみませんか】

富岡町お試し住宅

富岡町に移住をお考えの方向けに、実際に滞在して町の暮らしを体験できる「お試し住宅」をご用意しています。
町を散策して暮らしのイメージを具体化したり、職探し・住まい探しの拠点としてご利用ください。

対象

- ・町外に住所を有している方
 - ・町への移住を検討している方、もしくは町との交流・関係人口の創出が見込める方
 - ・滞在期間中、体験プログラムに参加できる方
 - ・暴力団員に該当しない方
- ※未成年のみのご利用はできません。

利用人数

最大6名

利用期間

最大5日間 ※それ以上の滞在は要相談。 ※利用期間は年末年始を除きます。

利用料

無料(但し、食費、交通費、生活に必要な消耗品費等は自己負担です。)

予約方法

利用開始希望日の2週間前までに、とみおかくらし情報館Webサイトよりお申し込みください。
<https://tomioka-plus.or.jp/tomiokakurashi/>

※郵送でのお申込みを希望の場合は事務局へお問い合わせ下さい。



とみおかくらし 移住体験 プログラム

とみおかくらしを体験できる様々なプログラムを用意して、お試し住宅を利用する皆さんをお迎えます。
実際に町を歩き、人と会うことで、移住後の暮らしのイメージが膨らみます。
ご希望を伺い、それぞれに合ったプログラムを担当スタッフがご提案します。

01

＜町のことを深く
知りたい方に＞

とみおかアーカイブ・ミュージアム
ふたばいんふお等の まちめぐり

02

＜移住後の余暇を
充実させたい方に＞

畑での苗植え・収穫体験
とみおかワイン・葡萄園場での
ボランティア体験等のアクティビティ

03

＜子育て・世帯の方に＞

こども園・小中学校の見学
子育て・教育環境等の相談



04

＜暮らしのイメージを
膨らませたい方に＞

周辺地域の案内・まちあるき
先輩移住者との交流

